SONY

3-198-123-**05** (1)

ステレオ
レコードプレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

PS-LX300USB

© 2008 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

2~3ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ 本機の電源プラグをコンセントから抜く。

❷ 本機とパソコンを付属のUSB接続ケーブルで接続している場合は、USB接続ケーブルを抜く。

❸ パソコンの電源を切る。

❹ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する。

機器は電源コンセントの近くでお使いください。異常な音やにおい、煙がでたときはすぐに電源コンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

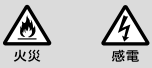
⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号

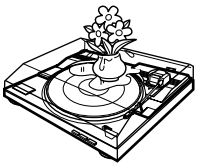
行為を指示する記号

⚠警告 火災 感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

内部に水や異物が入らないようにする

機器を水滴のかかる場所に置かないこと。及び水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、USB接続ケーブルをパソコンと本機から抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ダストカバーと本体の隙間や、ダストカバーを外して使用しているときに、ヒンジ部などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

指のケガに注意

目次

⚠警告 安全のために 2
この取扱説明書の使いかた 4

準備

本機をお使いになる前に 5
箱から出したら 5
組み立てる 6
オーディオ機器と接続する 7

演奏

レコードを演奏する 8

レコードをパソコンに録音する

パソコンと接続する 9
パソコンの準備をする 10
パソコンに録音する 13

その他

使用上のご注意 20
お手入れ 20
故障かな？と思ったら 22
保証書とアフターサービス 24
主な仕様 24
各部のなまえ 25

この取扱説明書の使いかた

- 「準備」(5～7ページ)をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは「演奏」(8ページ)、「レコードをパソコンに録音する」(9～19ページ)をご覧ください。

このモデルはDJ用ではありません。

- IBMおよびPC/ATは、米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- Microsoft 、 WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- 本書ではMicrosoft® Windows® XP Home Edition および Microsoft® Windows® XP Professionalを Windows XPと記載しています。
- 本書ではMicrosoft® Windows Vista® Home basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® Businessおよび Microsoft® Windows Vista® Ultimate をWindows Vistaと記載しています。
- 本書ではMicrosoft® Windows 7® Home Premium、Microsoft® Windows 7® Professionalおよび Microsoft® Windows 7® UltimateをWindows 7と記載しています。
- Sound Forge Audio Studioは、米国およびその他の国におけるSony Creative Software, Inc. または関連会社の商標または登録商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に

組み立てる

本機をはじめてお使いになるときは、組み立てが必要です。(6ページ)

レコードを聴くには

本機はスピーカーを内蔵していません。レコードを聴くには、本機をオーディオ機器に接続してください。(7ページ)

レコードをパソコンに録音するには

本機をパソコンにUSB接続して、レコードをパソコンに録音できます。あらかじめ、以下の準備が必要です。

– パソコンに「Sound Forge Audio Studio LE」をインストールする。(9ページ)
– 本機とパソコンをUSBケーブルでつなぐ。(9ページ)
– パソコンの録音デバイス、再生デバイスを設定する。(10 ～ 12ページ)

箱から出したら

次の付属品がそろっているかを確認してください。

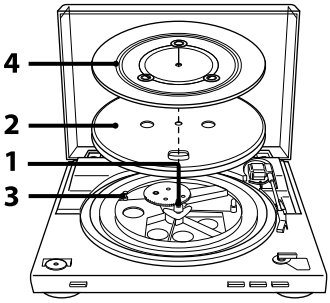
- ターンテーブル(ドライブベルト付)(1)
- マット(1)
- 45回転アダプター (1)
- 交換針(1)
- USBケーブル(1)
- 「Sound Forge Audio Studio LE」CD-ROM (1)
- 取扱説明書(本書)
- 「Sound Forge Audio Studio LE」インストールガイド
- 「Windows 7 搭載のパソコンで録音するには」
- 「Sound Forge Audio Studio LE」ユーザー登録について
- 保証書

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

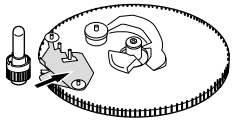
ご注意

再輸送のために梱包材は保管しておいてください。

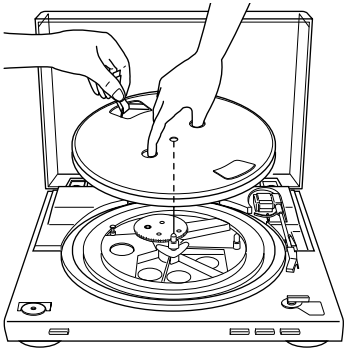
組み立てる



1 大きいギアの金属部品を矢印の方向に動かす。



2 ターンテーブルをスピンドルに合わせて置く。

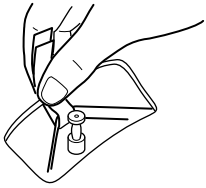


ご注意

ターンテーブルを落とさないように、しっかりと持ってください。けがをしたり、本機の損傷の原因になります。

3 リボンを持って、ドライブベルトをモーターのプーリーにひっかける。

ドライブベルトをねじらないようにご注意ください。



ベルトを巻き付けた後は、必ずリボンを外してください。

4 ターンテーブルにマットを敷く。

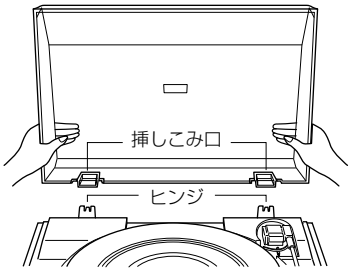
以上で本機の組み立ては終了です。

ご注意

プレーヤーを組み立てたり移動したあと、電源コードを接続すると、STARTボタンを押さなくてもターンテーブルが回り、アームがターンテーブル上に降りることがあります。
このようなときは、STOPボタンを押して、いったんアームをアームレストに戻してください。

ダストカバーのはずしかた

ダストカバーを開き、ヒンジからはずします。



ちょっと一言

ダストカバーをはずして使用することもできます。はずしたダストカバーは、大切に保管してください。

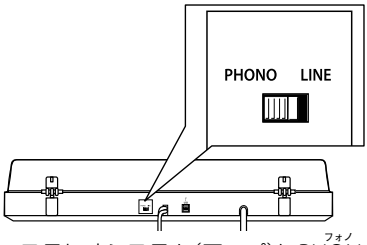
ダストカバーの取り付けかた

ダストカバーの挿しこみ口を、本機の背面にあるヒンジにはめこみます。

オーディオ機器と接続する

必ず、ステレオシステム(アンプ)の電源を切ってから接続してください。

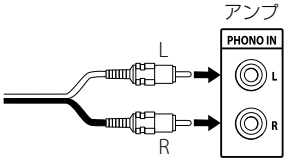
1 お手持ちのステレオシステム(アンプ)の端子に合わせて、背面のPHONO/LINE(フォノ/ライン)スイッチを切り換える。



- ステレオシステム(アンプ)にPHONO(フォノ)入力端子があるとき(PHONO入力端子に接続)
  →PHONO側にします。イコライザー機能はオフになります。
- ステレオシステム(アンプ)にPHONO入力端子がないとき(AUX入力、VIDEO入力端子などに接続)
  →LINE側にします。イコライザー機能はオンになります。

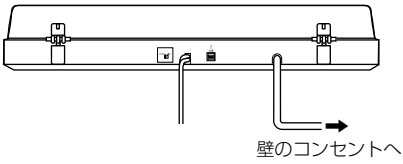
2 フォノケーブルをステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子につなぐ。

ステレオシステム(アンプ)にPHONO入力端子がないときは、AUX(オグジュアリー)入力端子またはVIDEO(ビデオ)入力端子につないでください。
白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。

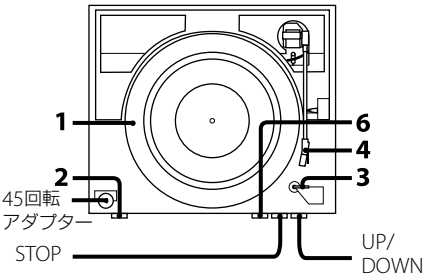


3 電源コードを接続する。

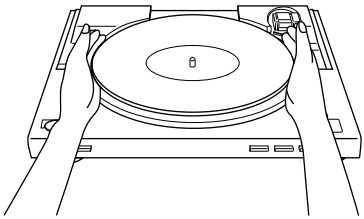
手順1、2の接続がすべて終了したら、電源コードを壁のコンセントに接続します。



レコードを演奏する



1 ターンテーブルにレコードをのせる。



ご注意

ターンテーブルには、一度に1枚のレコードしか置かないでください。

2 SPEED（スピード）ボタンで回転速度を選ぶ。

3 SIZE（サイズ） SELECT（セレクト）でレコードのサイズを選ぶ。

4 カートリッジの針先カバーを回して針先を出す。

5 ダストカバーを閉める。

6 START（スタート）ボタンを押す。

レコードサイズセンサーにより、トーンアームは自動的に適切な位置に降り、演奏が始まります。

ご注意

ステレオシステム（アンプ）の音量は、レコードを演奏するまえに下げておいてください。
トーンアームが降り、針先がレコードに触れたときに大きな音（ボツ音）がする場合があり、ステレオシステム（アンプ）やスピーカーを損傷する原因となります。針先が降りてから、音量を調節してください。

7 ステレオシステム（アンプ）で音量を調節する。

演奏が終了したら

トーンアームは自動的にアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

演奏を途中で停止するには

STOPボタンを押します。トーンアームはアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

一時停止するには

UP/DOWNボタンをUP位置にします。トーンアームはレコード盤より上がります。ターンテーブルは回転したままです。

演奏の途中から聞くには

1 ステップ4の後、UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを上げる。

2 演奏を始めたい位置に、トーンアームを手で持っていく。

3 UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを降ろす。
演奏が始まります。

17 cmレコードを演奏するには

付属の45回転アダプターをスピンドルの上に置きます。
アダプターを使い終わったら、アダプタートレーに戻しておいてください。

パソコンと接続する

付属のUSBケーブルで、本機とお手持ちのパソコンを接続し、付属のソフトウェアを使用すれば、レコードの曲をパソコンに録音することができます。

本機との接続に必要なパソコンの環境*

- 対応パソコン：
  IBM PC/AT互換機
- OS：
  Windows® XP Home Edition Service Pack 2以降
  Windows® XP Professional Service Pack 2以降
  Windows Vista® Home Basic
  Windows Vista® Home Premium
  Windows Vista® Business
  Windows Vista® Ultimate
  Windows 7 Home Premium
  Windows 7 Professional
  Windows 7 Ultimate
  標準インストール（日本語版のみ）
  - 上記以外のOSは動作保証いたしません。
  - 本機はWindows XP 64bit版および Windows Vista 64bit版には対応していません。
  - 付属のSound Forge Audio Studio LEは Windows XP 32bit版、Windows Vista 32bit版 /64bit版に対応しています。 Windows7 32bit版/64bit版は、バージョン9.0d 以降で対応しています。
- 以下の性能を満たしたWindowsコンピューター：
  - USBポート**

* 本機からレコードの曲をUSB接続でコンピューターに録音する際の動作環境です。

**本機は、USB（full-speed）に対応しています。

ご注意

- 上記の動作環境において、すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- 自作PCおよびOSの個人でのアップグレード、マルチブート環境での動作保証はいたしません。
- すべてのパソコンに対して、システムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、ハイバーネーション（休止状態）などの動作を保証するものではありません。

Sound Forge Audio Studio LEをインストールする

録音を始めるまえに、必ず付属の「Sound Forge Audio Studio LE」をインストールしてください。
いったんインストールしたら、再インストールが必要なとき以外は、再度この手順を行う必要はありません。

1 付属の「Sound Forge Audio Studio LE」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。

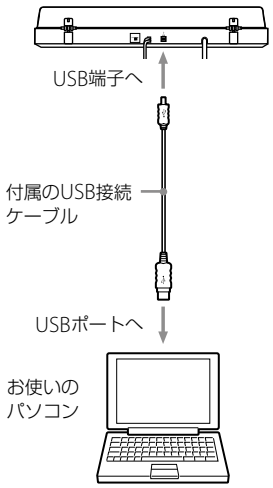
2 画面の指示にしたがって、ソフトウェアをインストールする。
インストールしたら、ユーザー登録を行ってください。

ちょっと一言

インストールの詳細については、付属の「Sound Forge Audio Studio LE」インストールガイドを参照してください。

USBケーブルを接続する

本機とパソコンを付属のUSB接続ケーブルで接続します。



次のページにつづく

ご注意

- USBハブ、またはUSB延長ケーブルを使わないでください。必ず付属のUSB接続ケーブルでパソコンと本機を直接接続してください。
- USBコネクターはまっすぐ奥まで差し込んで接続してください。斜めに差し込むと故障の原因になることがあります。
- 本機とパソコンを接続して操作するとき以外は、USBケーブルをはずしておくことをお勧めします。USBケーブルをつないだまま、他のオーディオ機器を接続するとノイズが発生することがあります。
- 本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続し、パソコンに曲を録音するときに本機で演奏すると、本機のイコライザーによって調整された音声がUSBケーブルを通してパソコンのUSBポートに入力されます。

ちょっと一言

お使いのパソコンのOSが、Windows XP、Vista、7の場合、USBドライバはOSに含まれており、本機を初めてUSB端子に接続したときに、USBドライバが自動的にインストールされます。詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

パソコンの準備をする

Windows XPの場合

（[コントロールパネル]が[カテゴリの表示]）

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [サウンド、音声、およびオーディオデバイス]をクリックする。

3 [サウンドとオーディオデバイス]をクリックする。

4 [音声]タブをクリックして、[音声録音]の[既定のデバイス:]に[USB Audio CODEC]を選択する。

5 [OK]をクリックする。

Windows Vistaの場合

（[コントロールパネル]が[コントロールパネルホーム]表示）

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [ハードウェアとサウンド]をクリックする。

3 [サウンド]の[オーディオデバイスの管理]をクリックする。

4 [録音]タブをクリックして、[USB AUDIO CODEC]を選択する。

5 [規定値に設定]をクリックする。

6 [USB Audio CODEC]を選択して[プロパティ]をクリックする。

7 [詳細]タブをクリックする。

8 [既定の形式]リストから[2チャンネル、…](例:[2チャンネル、16ビット、44100Hz(CDの音質)])を選択する。

9 [OK]をクリックする。

ご注意

- ステレオ信号を本機からパソコンへ入力する場合は、手順6から9の操作が必要です。
- Windows Vista SP1以降では、信号の入力レベルを設定することができます。詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

Windows 7の場合

([コントロールパネル]が[カテゴリの表示])

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [ハードウェアとサウンド]をクリックする。

3 [サウンド]の[オーディオデバイスの管理]をクリックする。

4 [録音]タブをクリックして、[USB Audio CODEC]が[既定のデバイス]になっているか確認する。

5 [USB Audio CODEC]を選択して[プロパティ]をクリックする。

6 [詳細]タブをクリックする。

7 [既定の形式]プルダウンメニューのリストから[2チャンネル、…](例:[2チャンネル、16ビット、44100Hz(CDの音質)]または[2チャンネル、16ビット、48000Hz(DVDの音質)])を選択する。

8 [OK]をクリックする。

ご注意

ステレオ信号を本機からパソコンへ入力する場合は、手順5から8の操作が必要です。

信号の入力レベルを設定するには

1 [USB Audio CODEC]のプロパティ画面で、[レベル]タブをクリックする。

2 スライダーをいったん0に移動する。

3 カーソルキーを使って、スライダーを調整する。
Level表示[0、0、1、2、3、…]の、2が本機に適した設定です。
このとき、消音ボタンがONになっていないことを確認してください。

4 [OK]をクリックする。

ご注意

入力レベルを推奨の設定範囲外に設定しないでください(左端の0にする、Level表示の数値を大きくするなど)。音が出なくなったり、音が歪んだりすることがあります。

次のページにつづく

パソコンのスピーカーから音を出すには

本機をパソコンに初めてUSBケーブルで接続すると、自動的に[再生デバイス]に[スピーカー USB Audio CODEC]が追加され、[既定のデバイス]に設定されます。
この状態ではパソコンのスピーカーから音が出ません。お使いのOSに合わせて以下の設定をしてください。

Windows XPでのデフォルト再生デバイスの設定

次の手順にしたがって、パソコンの再生デバイス設定を変更します。

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [サウンドとオーディオデバイス]を選択する。

3 [オーディオ]タブを選択する。

4 [音の再生]ボックスで、[既定のデバイス]ドロップダウンリストからデフォルトのサウンドカードを選択する。
お使いのパソコンによって再生デバイスが異なります。詳しくはパソコンの取扱説明書やヘルプを参照してください。

5 [適用]、[OK]を選択し、[サウンドとオーディオデバイスのプロパティ]画面を閉じる。

Windows Vistaでのデフォルト再生デバイスの設定

([コントロールパネル]が[カテゴリの表示])

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [ハードウェアとサウンド]を選択する。

3 [オーディオデバイスの管理]を選択する。

4 [再生]タブを選択する。

5 [再生]タブで、コンピュータのスピーカーを選択して[既定値に設定]をクリックする。
お使いのパソコンによって再生デバイスが異なります。詳しくはパソコンの取扱説明書やヘルプを参照してください。

6 [OK]を選択し、[サウンド]画面を閉じる。

Windows 7でのデフォルト再生デバイスの設定

([コントロールパネル]が[カテゴリの表示])

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [ハードウェアとサウンド]を選択する。

3 [オーディオデバイスの管理]を選択する。

4 [再生]タブを選択する。

5 [再生]タブで、コンピュータのスピーカーを選択して[既定値に設定]をクリックする。
お使いのパソコンによって再生デバイスが異なります。詳しくはパソコンの取扱説明書やヘルプを参照してください。

6 [OK]を選択し、[サウンド]画面を閉じる。

Sound Forge Audio Studio LEでのデフォルト再生デバイスの設定

1 Sound Forge Audio Studio LEを起動する。

2 [オプション]項目から[ユーザ設定]を選択する。

3 [オーディオ]タブを選択する。

4 [オーディオデバイスの種類]ドロップダウンリストから[Microsoft Sound Mapper]を選択する。

5 [適用]、[OK]を選択し、[ユーザ設定]画面を閉じる。

それでも音が出ないときは

接続を確認のうえ、Sound Forge Audio Studio LEをいったん終了し、再度起動してください。

パソコンに録音する

ソフトウェアの詳しい操作については、付属CD-ROMの「Sound Forge Audio Studio LE」クイックスタートガイドおよびソフトウェアのオンラインヘルプを参照してください。

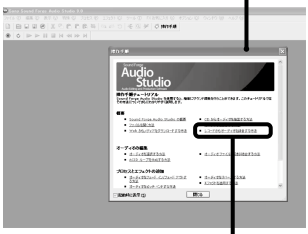
録音を始める前に

- 付属のソフトウェア「Sound Forge Audio Studio LE」をパソコンにインストールしてください。
- 本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続してください。

録音をする

1 パソコンでSound Forge Audio Studio LEを起動する。

2 「操作手順」画面の[レコードからオーディオを録音する方法]をクリックする。



ちょっと一言

「操作手順」画面が表示されない場合は、手順5から操作してください。

3 「レコードからオーディオを録音する方法」の「概要」画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。

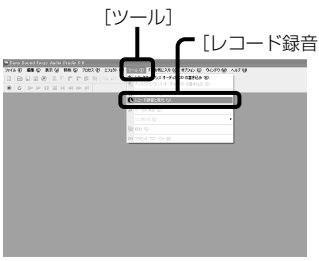
4 「レコードからオーディオを録音する方法」の「ハードウェアのセットアップ」画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。

ちょっと一言

本機とパソコンがUSBケーブルで接続されていれば、「ハードウェアのセットアップ」画面に記載されている接続の確認は不要です。

次のページにつづく

5 **「レコードからオーディオを録音する方法」の「手順1/1：レコード録音と復元の開始」が表示されるので、ツールバーの[ツール]から[レコード録音と復元]を選ぶ。**

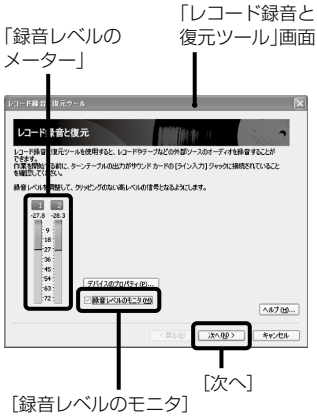


ちょっと一言

「操作手順」画面を使わずに操作するには、ツールバーの[ツール]から[レコード録音と復元]を選んでください。

6 **「レコード録音と復元ツール」画面が表示されるので、[次へ]をクリックする。**

パソコンから録音モニタ音を出すには[録音レベルのモニタ]をチェック(☑)します。



録音レベルのメーター（緑色の表示）が動いていることを確認してください。動いていない場合はパソコンとの接続およびパソコンの設定をご確認ください。(9～12ページ)

7 **[録音]ボタンをクリックする。**

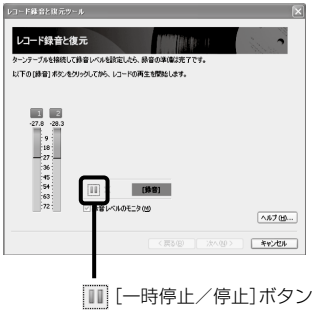
録音が始まります。

録音中は、画面上に [録音] の文字が表示され、文字の周囲が点滅します。

8 **レコードを再生する。**(8ページ)

9 **録音したい曲の演奏が終わったら、[一時停止／停止]ボタンをクリックする。**

録音が停止します。



録音したデータを保存するには

手順9で[次へ]をクリックすると録音したデータを保存する操作に進みます。

1 必要に応じて録音しているアルバムに関する情報(アルバムタイトル、アーティスト名など)を入力し、[次へ]をクリックする。

2 必要に応じて[オーディオ復元][ピークノーマライズ]にチェックを入れ、[次へ]をクリックする。
ノイズが多いレコードのノイズを除去したり、全体のボリュームを大きくできます。

3 録音したデータの保存先を選び、[次へ]をクリックする。
[トラックをオーディオファイルとしてハードディスクドライブに保存する]
パソコンにファイルとして保存します。曲の前後の不要部分を削除するなどの編集操作をしたい場合は、こちらを選んでください。
録音したデータの音質を保って編集操作をする場合は、[形式] を [Waveオーディオ] にしてください。編集したあとに、MP3などの形式に変換して保存することもできます。
[CDの書き込み]
CD-RまたはCD-RWに保存します。詳しくは「CDを作成する」(18ページ)をご覧ください。

4 [完了]をクリックし、録音を終了する。
[続けて録音]をクリックすると続けて別のアルバムを録音できます。

録音データの編集とCDの作成

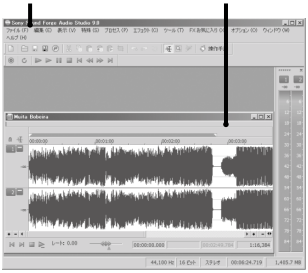
- 録音したデータは、レコードのノイズや曲の切れ目の時間が短いことが原因で、正しく曲ごとに分割されないことがあります。録音データの分割や結合を行うことで曲ごとに楽しむことができます。
- 録音したデータをCDに記録し、CDプレーヤーなどで楽しむこともできます。

曲を分割する

1 Sound Forge Audio Studio LEを起動する。

2 メインウィンドウで[ファイル]-[開く]から分割したい録音したデータ(wavファイルなど)を開く。
録音された曲の波形(データウィンドウ)が表示されます。

メインウィンドウ　データウィンドウ



次のページにつづく

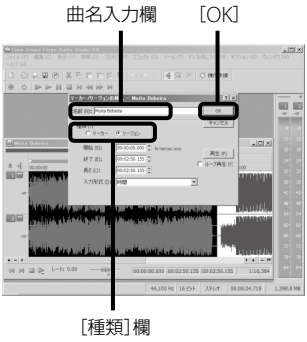
3 範囲を指定して分割する。

a. 曲の先頭にしたい場所で、上下2つの波形の表示枠の中央(境界)付近にカーソルを合わせる。

b. 左クリックしながら曲を終了させたい場所までドラッグして、1曲の範囲を指定する。

c. [特殊]-[リージョンの挿入]をクリックする。

d. 曲名を入力し、[種類]欄で[リージョン]が選択されていることを確認してから[OK]をクリックする。

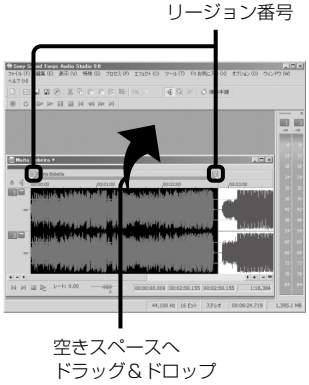


開始点と終了点(リージョン)が挿入され、選択範囲が分割されます。
2曲目以降も同様に操作してください。

4 分割した曲を別ファイルにするには
選択部分(黒く表示)にカーソルを合わせて、左クリックしながらメインウィンドウ内の空きスペースへドラッグ&ドロップする。
選択部分がコピーされ別ファイルとして生成されます。

ちょっと一言

別ファイルにしたい部分が選択されていない場合は、別ファイルにしたい範囲の、リージョン番号にはさまれた部分にカーソルを合わせて、ダブルクリックしてください。

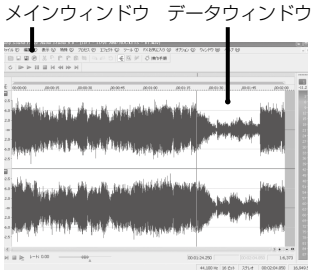


5 保存する。
保存対象のデータウィンドウを選択してアクティブにし、[ファイル]-[名前をつけて保存]から保存します。

曲を結合する

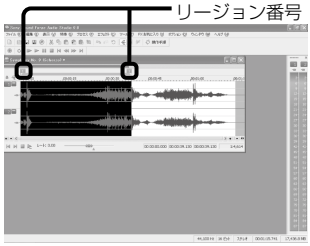
1 Sound Forge Audio Studio LEを起動する。

2 メインウィンドウで[ファイル]-[開く]から結合したい2つの録音したデータ(wavファイルなど)を開く。
録音された曲の波形(データウィンドウ)が表示されます。

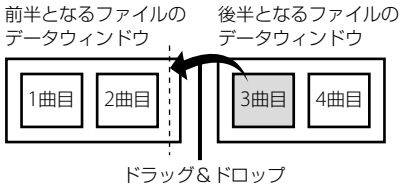


3 後半となるwavファイルで、結合したい範囲を指定する。
「曲を分割する」(15 ～ 16ページ)の手順3を参照してください。

4 指定した範囲の、リージョン番号にはさまれた部分にカーソルを合わせて、ダブルクリックする。



5 選択部分(黒く表示)にカーソルを合わせて、左クリックしながら前半となるwavファイルのデータウィンドウの最後尾へドラッグ＆ドロップする。
「ミックス/置換」確認画面が表示されます。



確認画面で [OK] をクリックすると、選択部分が追加コピーされます。

6 保存する。
保存対象のデータウィンドウをアクティブにし、[ファイル]-[名前をつけて保存]から保存します。

次のページにつづく

CDを作成する

（ディスクアットワンスの場合*）

* トラックアットワンスの場合のCDの作成方法は「付属のソフトウェアについての参照先」(19ページ)をご覧ください。

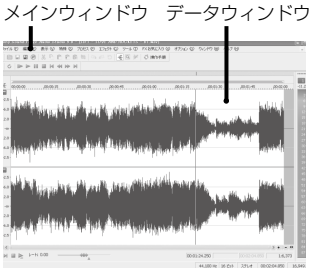
1 Sound Forge Audio Studio LEを起動する。

2 新しいデータウインドウで、記録したいwavファイルを準備する。
例：作成するCDの1曲目になるwavファイルのコピーを作成し、その最後尾に2曲目以降のwavファイルを結合して保存する。

ちょっと一言

作成したCDをCDプレーヤーで再生するためには、16ビット、44 kHzのwavファイルを準備してください。

3 メインウィンドウで[ファイル]-[開く]からCDに記録したいwavファイルを開く。
録音された曲の波形（データウィンドウ）が表示されます。



4 CD再生時に曲間に無音部分を設ける場合は

a. 結合した曲間のリージョンにカーソルを合わせる。
リージョンが紫色になります。パソコンのキーボードの左右キーで位置を調整できます。

b. [プロセス]-[無音部分の挿入]をクリックする。

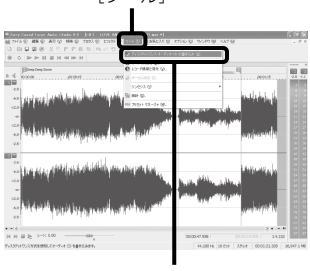
c. [プリセット]のプルダウンメニューから間隔を選択する。
CDの標準的な2秒間隔にする場合は、[[Sys]ファイルの先頭に2秒（CDのポーズの標準的な長さ）]を選択します。

d. [位置]のプルダウンメニューから[カーソル]を選択する。

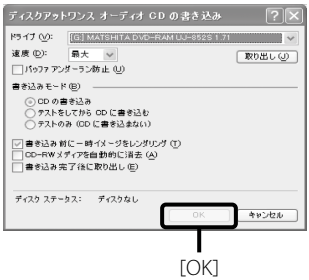
e. [OK]をクリックする。
無音部分が生成されます。
無音部分を設けたい曲間ごとに、手順4の操作をくり返してください。

5 CDに書き込むデータの準備が完了したら、パソコンのCD-R、CD-RWドライブに記録可能なCD-R、CD-RWをセットする。

6 [ツール]-[ディスクアットワンスオーディオCDの書き込み]をクリックする。



7 必要に応じて[バッファアンダーラン防止]、[書き込み完了後に取り出し]などにチェックを入れ、[OK]をクリックする。

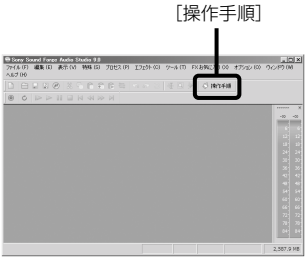


CDへの書き込みが始まります。

付属のソフトウェアについての参照先

下記を参照してください。

- **ソフトウェアをインストールするときは**
  「Sound Forge Audio Studio LE」インストールガイド(付属)を参照してください。
- **実際に操作を行いながら操作方法を確認したいときは**
  「Sound Forge Audio Studio LE」チュートリアルを参照してください。「Sound Forge Audio Studio LE」をインストールしたあと、初めてソフトウェアを起動すると表示されます。また、ソフトウェアの実行中に[操作手順]をクリックすると表示されます。



- **ソフトウェアの基本操作について確認したいときは**
  電子マニュアルの「Sound Forge Audio Studio LE」クイックスタートガイド(付属CD-ROM内)を参照してください。

その他

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
  （風通しの良い所でお使いください。）
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- 本機やパソコンなどを使用中、万一これらの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

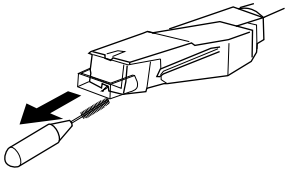
ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。
窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

お手入れ

針先とレコードのお手入れのしかた

針先やレコードの消耗を防ぐため、演奏する前に必ず針先とレコードのホコリを取り除いてください。
針先のホコリを取るには、レコード針専用のクリーニングブラシで、針の後方から前方に向かってブラシを動かします。液体のレコード針専用クリーナーを使用する場合は、針先を濡らしすぎないようにご注意ください。



レコードをふくときは、レコード専用クリーナーを使って全体をふきます。

キャビネットとダストカバーのお手入れのしかた

キャビネットとダストカバーの汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。汚れが落ちにくい場合は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

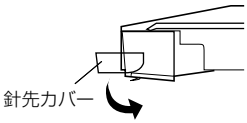
針先の交換のしかた

針先の平均寿命は約500時間です。良好な音質を保ち、レコードの損傷を避けるには、この期間以内に針先を交換することをおすすめします。
交換用針は、最寄りのソニーサービス窓口にお問い合わせください。

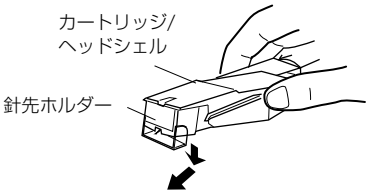
針先のはずしかた

1 ステレオシステム(アンプ)の電源を切り、本機の電源コードをコンセントからはずす。

2 針先カバーで針先を保護する。



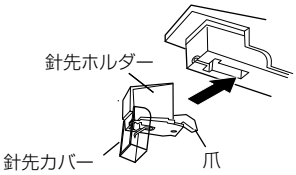
3 針先ホルダーを持って、矢印の方向に引き下げ、カートリッジ/ヘッドシェルから引き抜く。



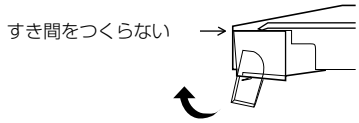
針先の取り付けかた

針先カバーで針先を保護した状態で、作業をしてください。

1 針先ホルダーの両側を持ち、針先ホルダーの爪をカートリッジ/ヘッドシェルの溝に差し込む。



2 針先ホルダーの両側を持ったまま、カチっという音がしてロックするまで、押し上げる。



ご注意

針先カバーを強く押さないでください。カバーが動いて、露出した針先でけがをしたり、針先を損傷したりするおそれがあります。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

レコード演奏

トーンアームが飛んだりスケーティングしたりする、または前進しない

- ターンテーブルが水平になっていないので、プレーヤーを水平に置く。
- レコードが汚れているか傷ついているので、市販のレコード専用クリーニングキットでレコードをふくか、または他のレコードと交換する。

正常な音質が得られない

- 針先が汚れているか消耗しているので、レコード針専用のクリーニングブラシで針先のホコリを取り除くか、または消耗した針先を交換する（20～21ページ）。
- レコードにホコリや塵が付いているので、レコード専用クリーナーでレコードをふく。

ランブルノイズや低周波ハウリング*が起こる

- プレーヤーの位置がスピーカーに近すぎるので、スピーカーをプレーヤーから離す。

* この現象は「音響フィードバック」と呼ばれています。スピーカーの振動が空気や固体（棚、キャビネット、床等）を通ってプレーヤーに伝わり、針先に拾われ、増幅され、スピーカーから再生された場合に生じます。

雑音が入る

- フォノケーブルをステレオシステム（アンプ）のPHONO入力端子に接続していないときに、本機とパソコンをUSBで接続している。
  - 背面のPHONO/LINEスイッチをLINE側にしてください。
    * LINE側にしているときに、ステレオシステム（アンプ）のPHONO入力端子にフォノケーブルを接続しないでください。
  - フォノケーブルの先端が金属に触れないようにしてください。
- 本機がパソコンとUSBケーブルで接続されている。USBケーブルをつないだまま、ステレオシステム（アンプ）などと接続すると、雑音が発生することがあります。

演奏スピードが正しくない

- 回転速度が誤っているので、レコードに記載されている回転速度に合わせる（33-1/3 r/minのレコードでは「33」を、45 r/minのレコードでは「45」を選択してください）。
- ドライブベルトがねじれている。ねじれを取り除いてください。

ドライブベルトが劣化している

- ドライブベルトを交換してください。
  ドライブベルトについては、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

ターンテーブルが回転しない

- 電源コードが壁のコンセントにしっかり接続されているか確認する。
- ドライブベルトがモーターのプーリーに完全に掛かっているか確認する。

ドライブベルトが切れている

- ドライブベルトを交換してください。
  ドライブベルトについては、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

音が小さすぎる、または歪んでいる

- 本機を接続したステレオシステム（アンプ）の入力端子と本機のPHONO/LINEスイッチが、正しく対応しているかどうか確認する（7ページ）。

USB接続/録音

接続しても、本機をパソコンが認識しない。

- USB接続ケーブルを抜き、再びパソコンと本機をUSB接続ケーブルで接続する。
- パソコンと本機をつないだ状態で、パソコンを再起動する。
- USB接続ケーブルを抜き、パソコンを再起動する。再起動後、パソコンと本機をUSB接続ケーブルで接続する。
- USBデバイスドライバが正しくインストールされているか確認する。
  - 本機をパソコンに初めてUSBケーブルで接続したときや、以前に接続したUSB端子と異なる端子に接続したときに、USBデバイスドライバが再度、自動的にインストールされる場合があります。これらのデバイスドライバが正しくインストールされているかは、つぎの手順で確認してください。

• Windows XPの場合
（[コントロールパネル]が[カテゴリの表示]）

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする。

3 [システム]をクリックする。

4 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]をクリックする。

5 [デバイスマネージャ]ウィンドウで、下記のデバイスがインストールされているか確認する。
- [ヒューマンインターフェイスデバイス]下に[USBヒューマンインターフェイスデバイス]、[HID準拠コンシューマ制御デバイス]
- [サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ]下に[USBオーディオデバイス]
- [USB（Universal Serial Bus）コントローラ]下に[USB複合デバイス]

• Windows Vistaの場合
（[コントロールパネル]が[コントロールパネルホーム]表示）

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [システムとメンテナンス]をクリックする。

3 [デバイスマネージャ]をクリックする。

4 [デバイスマネージャ]ウィンドウで、下記のデバイスがインストールされているか確認する。
- [ヒューマンインターフェイスデバイス]下に[USBヒューマンインターフェイスデバイス]、[HID準拠コンシューマ制御デバイス]
- [サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ]下に[USB Audio CODEC]
- [ユニバーサルシリアルバスコントローラ]下に[USB複合デバイス]

• Windows 7の場合
（[コントロールパネル]が[カテゴリの表示]）

1 [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択する。

2 [ハードウェアとサウンド]をクリックする。

3 [デバイスとプリンタ]の[デバイスマネージャ]をクリックする。

4 [デバイスマネージャ]ウィンドウで、下記のデバイスがインストールされているか確認する。
- [ヒューマンインターフェイスデバイス]下に[HID準拠コンシューマ制御デバイス]、[USB入力デバイス]
- [サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ]下に[USB Audio CODEC]
- [ユニバーサルシリアルバスコントローラ]下に[USB複合デバイス]

ご注意

- 異なるUSBポートに本機を初めて接続した場合は、USBドライバのインストールが必要な場合があります。
- 異なるUSBポートに本機を初めて接続した場合は、USBドライバが再度、自動的にインストールされる場合があります。その場合、上記の手順でドライバが正しくインストールされているか確認してください。

パソコンに録音された曲が途切れる

- パソコンのCPU負荷が大きいので、他のアプリケーションを終了する。
- 同時に他のUSB機器を使用している場合は、他のUSB機器の使用を停止する。

レコードの曲がパソコンに録音（入力）できない、または音が歪んでいる

- パソコンの録音デバイスが正しく設定されているか確認する。（10 ～ 12ページ）
- 信号の入力レベルが推奨の設定範囲外になっているので、調整する。（11ページ）

USBオーディオ出力の音声に電気的な雑音が入る

- 本機の近くに電灯線、蛍光灯、携帯電話などがある場合は、本機から遠ざける。

付属ソフトウェアが起動しない

- ソフトウェアのインストール後、ユーザー登録をせずに30日が経過している。
  ユーザー登録を行ってください。

付属ソフトウェアの起動画面でシリアルナンバーを入力するように要求される

- インストールに失敗している。
  ソフトウェアをアンインストールし、再インストールしてください。
  ウイルス対策ソフトなどの常駐ソフトを使用している場合、インストールの間は停止しておいてください。

ご注意

パソコンの操作について、詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「サービス窓口、ご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。
- 型名：PS-LX300USB
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

モーター/ターンテーブル

駆動系	ベルトドライブ
モーター	DCモーター
ターンテーブル	直径295 mm、ダイキャストアルミ合金
回転速度	2速（33-1/3 r/min、 45 r/min）
ワウ&フラッター	0.25 %未満（WRMS）
S/N比	50 dB以上（DIN-B）、付属カートリッジ使用時

トーンアーム

型式	ダイナミックバランスストレートアーム
実効アーム長	195 mm

USB部

出力端子	プラグインパワー対応USB端子（USBコネクターシリーズB） USB（full-speed）
電源	USBバスパワー対応（付属のUSBケーブルを接続して、パソコンから供給） （5 V、100 mA）

電源、その他

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	2 W
最大外形寸法	420 × 95 × 360 mm （幅／高さ／奥行き）
重量	約3.1 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ

1 スピンドル

2 45回転アダプター

3 SPEED(スピード)ボタン

4 マット

5 ターンテーブル

6 カートリッジ／ヘッドシェル

7 START(スタート)ボタン

8 インシュレーター

9 ダストカバー

10 ヒンジ

11 トーンアーム

12 アームスタンド

13 指かけ

14 SIZE(サイズ) SELECT(セレクト)

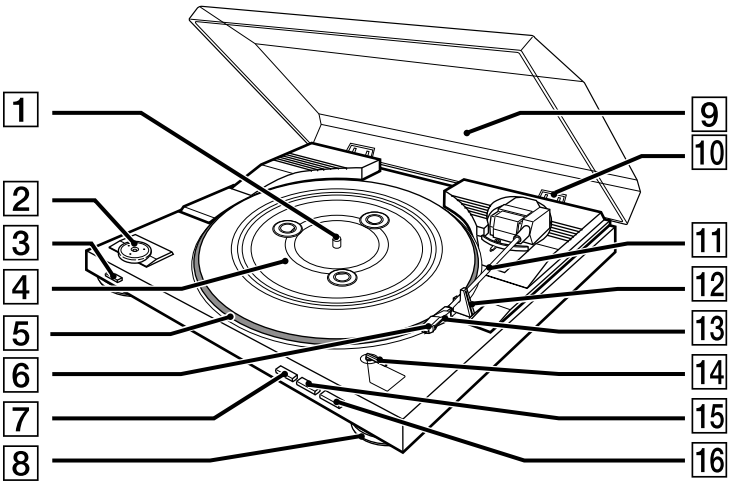
15 STOP(ストップ)ボタン

16 UP(アップ)/DOWN(ダウン)ボタン

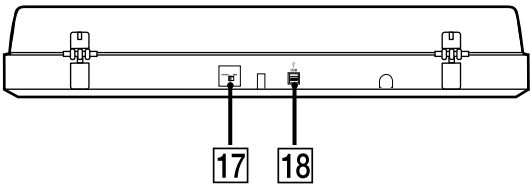
17 PHONO(フォノ)/LINE(ライン)スイッチ

18 USB端子

前面



背面



よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.jp/support/

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥ 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in China